

## 賛成討論

公明党京都市会議員団は、議第14号から議第17号、平成29年度京都市水道事業特別会計予算ほか3件について、賛成の立場を表明しております。私は、議員団を代表してその理由を述べ討論を行います。

まず上下水道事業における予算について申し上げます。平成29年度は平成20年度から10年間に取組むべき課題や目標を定めた「京（みやこ）の水ビジョン」及び同ビジョン後期5箇年の実施計画である「中期経営プラン」の最終年度となります。ビジョン及びプランの締めくくりの年として、老朽化した水道管更新のスピードアップや、雨に強いまちづくりの実現に向けた雨水幹線の整備など、プランに掲げた目標の達成に向けた着実な事業の推進が示され、中でも道路部分における鉛製給水管取替については平成29年度中に解消を図るとされ、今後は補助給水管整備に予算充当される方針も示され老朽管対策の強化につながるものと評価いたします。今後これらの事業を確実に推進するとともに、更なる経営の効率化、財政の健全化に引き続き努めて頂くよう強く求めています。

また平成30年度からの新たな「京（みやこ）の水ビジョン」と実施計画である「中期経営プラン」策定については、これまでの取組をしっかりと総括し、経営基盤の安定を図ると同時に、水需要の減少や施設の老朽化はもとより、大規模災害への対応や環境対策も含め、様々な事業課題を克服できるよう、長期的な展望をもって策定していただくよう要望します。

さて全国的に多発している老朽配水管等に起因する陥没事故は、上水道は115年、下水道は87年の歴史を有する本市上下水道事業にとって、決して他人事ではありません。今般報告のあった「上下水道施設等マネジメント計画（案）」で示された予防保全の考え方にに基づき、維持管理体制を早急に構築し陥没事故等の未然防止に努めて頂きたい。

現在進められている鳥羽水環境保全センターでの汚泥ガスの活用は、Co2排出量の削減に非常に有効な取組であると評価いたします。こうした取組のほかにも、下水熱をはじめ上下水道局の所管する施設には、再生可能エネルギー創出の宝庫とも言うべき様々な可能性があり、私ども公明党市会議員団もかねてより提案して参りましたが、再生可能エネルギーの開発を、民間の技術、ノウハウを取り入れながら局あげて積極的に進めて頂きたい。

次に、自動車運送事業並びに高速鉄道事業についてですが、経営健全化の着実な推進により、連結ベースでの財政健全化に大きく寄与するに至っています。市バス事業については、路線・ダイヤの充実や快適なバス待ち環境の創出など、更なる利便性の向上に努められ、29年度予算では今年度予算に比べ、一日当たり9千人の増客となる36万2千人を見込むなど、引き続き攻めの経営を貫かれることに敬意を表するものです。

とりわけ、「自立した経営」を達成した市バス事業の利益剰余金を活用して、これまでの一般会計からの出資に対して配当を実施するとともに、地下鉄事業に対して経営健全化を財政面から支援するために出資を決断されました。市バス事業の充実と合わせて、交通局総体として経営基盤の強化に全力を尽くすとの決意の表れにとらえ、評価いたします。

地下鉄事業については、平成 21 年度からスタートした経営健全化計画の「30 年度までに 5 万人増客」、すなわち一日当たり 37 万 5 千人の目標を、今年度中に 2 年前倒しで達成の見込みであり、来年度予算ではさらに上回る 37 万 8 千人を見込んでおります。きわめて高いハードルであった、5 万人増の目標達成は、市長自ら必ずやり遂げるとの強い決意の表明のもと、市役所が一体となつての取組の成果であると評価いたします。

この間太秦もえのキャラクターを生み出すなど、若手職員の柔軟な発想を積極的に採用する取組、また駅ナカアートプロジェクト、サブウェイパフォーマー等々駅施設の有効利用に取り組まれました。中でも賑わいを創出のため取り組んだエキナカビジネスは、民間事業者の参入により店舗を開業、今では多くの利用者に喜ばれ、財政面でも有力な収入源となっております。明日 25 日にはコトチカ京都増床開業記念式典が予定されており、今後も、進化し続けていくものと大いに期待するものです。

近年インバウンドに代表される観光客の急激な増加という追い風に機敏に対応することが出来たのも、こうした攻めの姿勢によるものと評価します。今後も引き続き、経営健全化団体からの脱却に向けた取り組みを一層推進して頂きますよう求めます。

一方、転落防止対策など安全対策は喫緊の課題であり、ホームドアの設置拡充に向け鋭意取り組まれるところでありますが、その間には新規事業の前方確認のための車外ミラー設置などあらゆる手立てを講じる様求めます。

併せて、バス事業については主に観光客の増加により混雑問題が顕在化し、喫緊の課題となっております。29 年度予算では様々に混雑緩和策を掲げておられますが、くれぐれも市民生活と観光客が両立できるよう慎重に、丁寧に取り組んで頂きたい。特に、一日乗車券価格適正化及び観光一日乗車券値下げの検討については、市民からの信頼を得たうえで理解を求める事案であると考えます。したがって慎重な議論を尽くし、市民に丁寧な説明を行い、市バスの混雑緩和と地下鉄への利用誘導という目的達成につながるよう取り組んで頂きたい。

さて今年度は、バス運転士による運行中のスマートフォン操作、アルコール検査をすり抜け出庫、その後の検査でアルコール分検知、或は乗務中電源入りスマートフォンを車内で充電、更には降車されるお客様からの運賃着服行為、また先般の運行中接触事故時の乗客への不適切な対応と不祥事が頻発しました。市民の信頼を回復するため来年度は管理者自らの固い決意と覚悟をもって、徹底した再発防止策を講じ不祥事を根絶して頂かなくてはならないと指摘しておきます。

また新たな「経営ビジョン」の策定についてですが、平成 29 年から 30 年度の 2 箇年で 10 年間の計画を策定されることとされておりますが、経営基盤を安定させるための取組とともに、何より市民の利便性向上に資するものとなるよう求めます。策定にあたっては有識者会議を構成するとされておりますが、多様な意見を取り入れるためにも、いわゆる有識者以外にも市民の皆様、その中でも女性や若者の意見も反映されるよう求めたいと思います。

以上、会派の意見を何点か申し述べました。改めて、来年度は上下水道事業、交通事業共に、それぞれ「中期のプラン」及び「経営ビジョン」の策定に向けての検討を始める重要な年度となります。次の 10 年、20 年の確たる基盤を確立すべく、予算で掲げた事業を確実に成し遂げられるよう求めるとともに、私共公明党市会議員団は引き続きチェック機能を高め市政と向き合い、かつ市民の声を反映した建設的な提言に努めて参る決意です。ご清聴ありがとうございました。